

高松医療センター



Medical News

私たちは、患者さんとそのご家族の立場に立った医療の推進に努めます

新年のご挨拶

院長
市原 典子



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
旧年中は大変お世話になり有難うございました。

昨年4月に院長に就任し早9か月が過ぎました。その間、アフターコロナにおける患者数減少や物価の高騰、老朽化した建物や機器の修繕費用などに悩まされながらも、強みを磨き特徴ある医療を展開すること、医療・看護・介護のクオリティを上げ高松医療センターブランドを確立することを目指し、職員一同、日々精進しております。

院長として歩み始めたばかりではありますが、少しずつではあってもまっすぐに目標に向かって病院運営を行っていきたくて思っております。

当院の機能の1つ目の柱である『**県の難病相談支援ネットワークにおける神経筋分野の拠点病院としての難病医療**』においては、長期療養病床の確保のみならず、病状評価、アドバンス・ケア・プランニング、在宅環境整備を基本とする「在宅サポート入院」、介護者が休息するための「レスパイト入院」、パーキンソン病に特化したリハビリテーション入院の「ブラッシュアップ入院」など、在宅療養をサポートする入院プログラムに力を入れております。患者さんに寄り添い、より良い人生を送れるように多職種チームで支える医療を目指しております。

2つ目の柱である『**結核を含む呼吸器疾患に関する専門医療**』においては、県の最終拠点病院と

しての結核医療と慢性呼吸不全や肺感染症を中心とした診療を行なってきましたが、新たな企画として「包括的呼吸リハビリテーション入院」を開始し、「非結核性抗酸菌症の専門外来と治療入院」についても準備中です。いずれも当院の強みを活かした魅力ある企画です。

3つ目の柱である『**高齢者や障がい者にも優しい一般医療**』については、糖尿病、消化器疾患、血液疾患などの専門領域の診療に加えて、急性期治療後の回復に時間を要する高齢者・障がい者のリハビリテーション継続や退院支援をおこなってきました。また昨年10月より念願の小児科常勤医師着任を受けて、重症心身障害や筋ジストロフィーなど、重度の身体障害を持つ医療的ケア児の小児期から成人期への移行期医療を始めました。高齢者や障がい者に障がい児も加え『**高齢者や障がい児/者にも優しい一般医療**』として、新たな地域のニーズに答えられるよう体制を整えていきたいと思っております。

今後も患者さん・周辺の医療機関・介護福祉関係者等のニーズ、自治体が有する課題に目を向けた取り組みを推進し、地域になくてはならない病院であり続けたいと思っております。

皆様、本年も、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年は結核ユニット病床20床のうち8床をモデル病床に転換した運用を開始しました。転換後も結核患者の受け入れは支障なくできていますが、モデル病床の運用がこれからの課題と考えています。また小児科医師が着任し、重度の身体障害を持つ医療的ケア児の小児から成人への移行期医療について準備を進めており、本年は本格的に始動する予定です。

本年も呼吸器疾患診療体制については、結核・抗酸菌感染症診療と呼吸器一般診療の2本立てで行って参ります。特に増え続ける非結核性抗酸菌症に関して、非結核性抗

酸菌症専門外来・入院の開設を準備しています。また、当院の特性を生かし、多職種で関わる包括的呼吸リハビリテーション入院を開設しました。パンフレットを同封しましたので、該当する患者がおられましたら、ぜひご相談ください。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して1年以上経過しました。しかし昨年も複数回の感染ピークがあり、マイコプラズマや手足口病などの流行も相まって、難しい対応を迫られることが多くありました。本年はもう少し落ち着いた状態になることを切に願います。

本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。



副院長
東條 泰典



看護部長
小笠原 あゆみ

新年あけましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

昨年11月に香川県難病相談支援ネットワーク事業として、シンポジウムを開催いたしました。その際、シンポジストの方から「当院のレスパイト入院を利用されている患者さんから、看護師さんが良く話を聞いてくれて、お世話もしてくれる。とても気に入っているから、また入院したいと言われていました。」と大変ありがたいお言葉を頂きました。

当院では地域を支える病院の機能として3つの柱を掲げており、その中の1つ

の柱として「高齢者や障がい児(者)にも優しい一般医療」があります。看護師としての“優しさ”とは、患者さんの声や訴えにまず真摯に耳を傾ける事だと思えます。それは、より良い看護の為に患者さんが何を感じ、何を望んでいるのか考える必要があるからです。そして、患者さんの思いに寄り添い、支えることができるよう努力していく事が大切です。

今年度も引き続き、患者さんの「生きる」を支え、優しい看護師を育むことができるよう取り組んで参ります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

あけましておめでとうございます。

今年の干支は「巳」ですが、正確には干支は「十干十二支(じっかんじゅうにし)」からなり、今年は「乙巳(きのと・み)」にあたるそうです。「乙」は十干の二番目で、物事の発芽や成長の初期段階を、「巳(へび)」は脱皮を繰り返し成長することから、「生命力」や「再生」を意味します。よって「乙巳」は「芽吹きが成熟し、転機を迎える時期」を表すとのこと。

当院はまさに「乙巳」の表すように大きな成長を迎えるところです。昨年4月に市原新院長のもと新体制での運営がスタート

し、10月には小児科医師が加わりました。夏頃からは、進んだり戻ったりしながらではありますが、少しずつ成果が見え始めていると感じます。また、長年の紫外線により色褪せていた病院入り口の看板が、昨年末の塗り直しにより鮮やかに生まれ変わりました。この様子を見て、当院の再スタートを実感したところです。

今年も引き続き「地域で求められる病院」を目指し、院長以下一丸となって取り組む所存です。

本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。



事務部長
伊藤 真之



新任医師紹介

小児科
植月 元一



令和6年10月から四国こどもとおとなの医療センターより異動して参りました、小児科医の植月 元一(うえつき げんいち)と申します。これまで、香川大学医学部附属病院、香川県立中央病院、坂出市立病院、四国こどもとおとなの医療センターで小児科医、新生児科医、脳神経小児科医として診療に当たって参りました。医師としては11年目となり、小児科専門医を取得後、現在ではてんかんや神経・筋疾患などの小児神経疾患を中心とした診療に当たっております。もともと、東京で生まれ、大阪、滋賀など様々な場所に住んでおりましたが、香川県の暖かい気候や土地柄に触れ、気づけば人生の半分近くを香川県で過ごし、この四国の穏やかな土地や海に愛着をいだくようになっていました。

当院では、この度、小児科を開設し小児科診療を始

める運びとなり、その立ち上げという大役を拝命いたしました。近年、医療技術の向上に伴い、医療的ケアを必要とする小児が増加傾向にあることが大きな社会問題となっており、私自身も小児科医として日々過ごす中で問題意識を持つようになりました。このような医療的ケア児に対しては、よりよい生活全般のサポートを社会全体で提供することが重要であり、病院としてその一端を担い貢献できればと思います。新しいことを始めるにあたって不安もありますが、一方でやりがいも感じています。まだまだ若輩者でわからないことも多いですが、日々スタッフに助けをいただながら勉強しております。

少しでも地域の患者さんにお役に立てる質の高い医療の提供に努めて参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



医療的ケア児について

小児科 植月 元一

口腔内・気管内の吸引や経管栄養注入など、日常生活に必要な医療的生活援助行為は、治療行為としての医療行為と区別して医療的ケアと呼ばれ、こういった行為を日常的な生活の中で必要とする児童を医療的ケア児と呼びます。わが国では近年、少子化が急激に進行する一方で、医療の進歩に伴って医療的ケア児の人数は増加傾向にあり、大きな社会問題となっています。厚生労働省の発表によると、令和1年には在宅の医療的ケア児(0~19歳)の統計値は2万人を超えました。その原因となる疾患は脳性麻痺や神経・筋難病、先天性代謝疾患など多岐にわたり、障がいの程度も様々です。そのうえ、小児期は身体的にも精神的にも発育途中であることから、それぞれのライフステージによって異なった問題を抱えています。これにより、患者本

人のみならずそのご家族も問題を抱え込んでしまうことはしばしば見られます。そのため、患者一人一人に合うというだけでなく、将来を長期的に見据えた持続可能な医療を構築していく必要があります。当院では、病院だけでなく、地域全体で患者や養育者のQOLも向上させ、社会に還元していくことを使命と考え診療に当たっています。また、成人期に特有な生活習慣病や心血管障害などの疾患にも対応し、よりライフステージに沿った医療を滞りなく提供できるように、成人診療科と協力しながら移行期医療の枠組みの構築にも取り組んでいます。

お困りのことがございましたら、どうぞお気軽にご相談いただければと思います。



外来診療担当一覧表

診療受付：8：30～11：30

診療時間：8：45～17：15

令和7年1月1日現在

診療科		月	火	水	木	金
内科	午前	大森 実	糖尿病 細川 等	糖尿病・禁煙外来 細川 等	糖尿病 細川 等 内科 山野 智子	
	午後	山野 智子	糖尿病 細川 等			
脳神経内科	午前		市原 典子	第1・3週 榊原 奈津子 第2・4週 渋谷 佳子		小児神経内科 第1・3週 畠田 勝義
	午後	國土 曜平				小児神経内科 第1・3週 畠田 勝義
呼吸器内科	午前	東條 泰典	田所 明	二見 仁康		田所 明
	午後			東條 泰典		
循環器内科	午前			辻 哲平		ペースメーカー外来 (隔週) 飛梅 淳 (隔週) 守家 聖二
	午後		水重 克文			第2・4週 水重 克文
整形外科	午前	濱崎 寛	藤木 敬晃			
	午後				濱崎 寛	
泌尿器科	午後				加藤 琢磨	
皮膚科	午後	第1・3・5週 山村 健太郎 第2・4週 田中 久夢				
歯科	午後		十河 京子			十河 京子

※外来診察は予約制を基本としています。診察予約につきましては地域医療連携室へお問い合わせ下さい。

アクセス

〒761-0193

高松市新田町乙8番地

地域医療連携室

TEL：087-841-2162

FAX：087-841-2178

お車をご利用の方

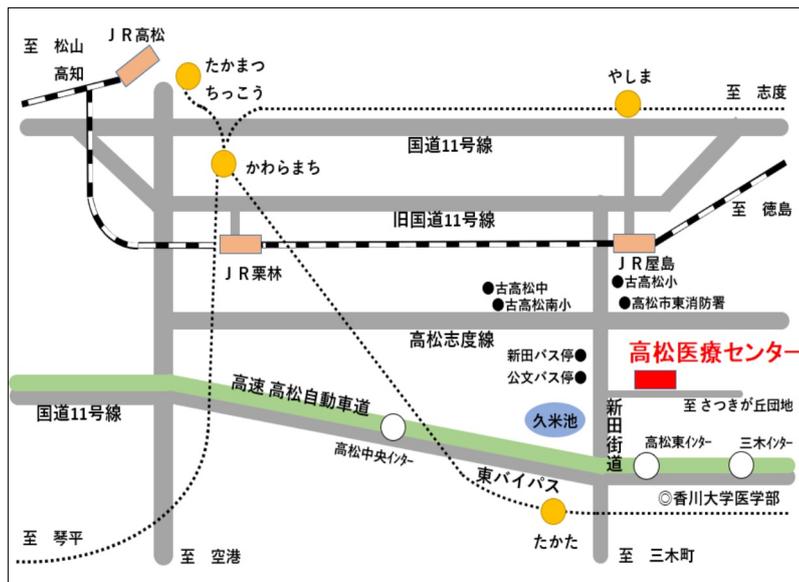
J R屋島駅西側(馬場先)から南へ延びる新田街道の途中、信号機のある三叉路を東に上がった丘陵地にあります。駐車場は無料。

バスをご利用の方

ことでんバス『大学病院線』乗車

(起点：高松駅 終点：ことでん高田駅)

『高松医療センター』下車



独立行政法人 国立病院機構 高松医療センター

NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION TAKAMATSU MEDICAL CENTER

発行責任者：院長 市原 典子

編集責任者：副院長 東條 泰典

こちらのQRコードから当院の
ホームページをご覧ください

